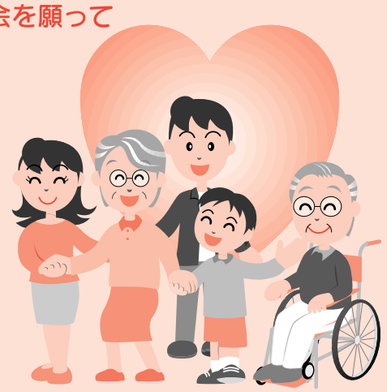
第32回 神奈川県福祉作文コンクール

“おもいやり”や“たすけあい”の心を育み、「ともに生きる福祉社会」の実現を目指して始められたこのコンクールは、今年で第32回を迎えます。
その間、“やさしさ”あふれる約41万編もの作文が寄せられました。
小学生も、中学生も、お年寄りも、障がいのある人も、健康な人も、みんなで手をとり合い、肩くみあって、生き生き暮らせる社会を願って
福祉作文コンクールを実施いたしました。



■県内応募総数10，816点（小学校の部8，240点　中学校の部2，576点）
■市内応募総数74点（小学校の部21点　中学校の部53点）

県最終審査会において選考の結果、市内より3点が入選いたしました。おめでとうございます！！

【小学校の部】 準優秀賞……鎌倉女子大学初等部　1年　出雲　今日子さん
【中学校の部】 優秀賞（神奈川県教育長賞）…鎌倉女子大学中等部　1年　森本　鈴佳さん
準優秀賞……横浜国立大学教育人間科学部付属鎌倉中学校　1年　出沼　一希さん

今回は中学校の部で優秀賞（神奈川県教育長賞）を受賞されました、森本鈴佳さんの作文をご紹介させていただきます。

今、私は優しくなれた

鎌倉女子大学中等部　一年　森本　鈴佳

私のはとこの名前は『ななみ』ちゃん。私と同じ中学一年生です。小さい時からよく遊んでいました。私が小さい時には、私にはわからなかったのですが、ななみちゃんは、ダウン症という障害をもって生まれたそうです。

今になってみると、ななみちゃんはあまりしゃべらなかったし、少し太っているけれど体がやわらかかったということがわかります。そういえば、ななみちゃんと同じような顔つきをしている人をよく見かけます。ななみちゃんは四人兄弟で、弟たちの面倒も良く見ているし、中学校にも行っているので、障害なのかわかりません。

ダウン症とは染色体の異常だそうです。ななみちゃんのお母さんに思い切って聞いてみました。「どこが障害児なの？」ななみちゃんのお母さんは「発達が遅いのよ。何をやるにもすずちゃんの二倍かかるしね。」と言っていました。

どうして同じ人間なのに生まれて来る時に障害を背負ってくる人と、普通の人に分かれてしまうのでしょう。なぜ神様は公平に生まれさせてくれないのでしょう。

私はななみちゃんのお母さんが、とても大変なんだろうなぁと思いました。障害児を生んでしまったこと、生まれてくる子に罪はないから、本当に辛く悲しかったと思います。でもななみちゃんのお母さんは、とても明るいです。そして優しいです。「ななみはたぶん、仕事も満足にできないし、結婚もできないかもしれないから、それまではずーっと一緒にいてあげることが、ななみに対しての償いなのよ。」私は涙が出てきてしまいました。

東戸塚の駅の近くに障害者の施設があります。よくマイクロバスが障害者の人たちを送って来ているところを見かけます。バスから降りて来た人たちは、ななみちゃんと同じダウン症の人、ちょっと落ち着きのない人、見た目ではわからない障害者と思われる人もいました。みんな大人でした。となりには、彼らのお父さん、お母さんの姿もありましたが、だいぶ年をとっているように見えました。毎日決まった時間に送り迎え、大変だなあと思いました。でも親御さんたちは、ななみちゃんのお母さんと同じような気持ちで、いかに自立させるか、一緒にいてあげるかということを必死に考えていることと思います。

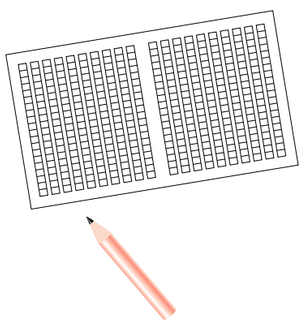
母の知り合いに、この施設に勤めている人がいます。その方のお話を聞くことができました。施設の中には、色々な障害者がいて、自分一人でできない、洋服などもすぐ汚してしまう、本当に大変なのは、親御さんだと言っていました。自分がもし障害者の親だったら、そこまでできるか？投げ出してしまうのではないか？考えさせられてしまいました。

今、社会の中で問題になっているのは、高齢化など、福祉のことです。介護士はとても大変なので、なかなかなり手がいないそうです。でも誰かが助けてあげなければ、障害者を持つ親御さんたちは、力尽きてしまうと思います。

私は身内に障害者がいるのにもかかわらず障害者や福祉について考えた事がありませんでした。ななみちゃんなら、学校を卒業して社会人になった時も一人で自立していくことができると思います。私はななみちゃんのお母さんに言いました。「すずにできることがあったら、何でも言ってね。」少し恥ずかしかったけれど、「ありがとう。勉強を教えてもらおうかな」と言われました。

私はありがたいことに、健康で生まれて来ました。ななみちゃんが一生けん命やっている姿、お母さんの優しい気持ち、色々なことを考えさせられました。罪のない障害者のために、まわりが優しくなろう。助けてあげよう。私に出来ることは何だろう？

今年の夏休み、久しぶりにななみちゃんに会って、たくさんのことを教えられたし、考えることができ、私自身優しくなれたような気がしました。



ふくしコラム 6

湘南鎌倉法律事務所
社協、福祉法律相談弁護士　有坂　正孝氏

■天女が舞い降りた（後編）

見守りを始めてから1年3ヶ月後のある朝のことです。「今日、お花のお弟子さんがくるの」B子さんが嬉しそうに私に告げました。「どこから」「横浜から。何年も前からのお弟子さんなの」「何時来るのですか」「夕方の6時半に。お勤めを終えてから来るの」せん妄状態により錯覚したのだと考えた私はB子さんの話を聞き流しました。しかし、夕方が近づくと、私は来ない弟子を待ち続けるB子さんが気になり、初めて夜の見守りをすることにしました。街灯に照らされているB子さんの家の門を開けると、玄関に通じる飛び石に打ち水がしてあり、それがキラキラと光っています。家の中が眩しい程の灯に満たされいることに気を取られた私は、挨拶するのも忘れて家の中に入り、つき当りの襖を開けました。正面に美しい中年の女性が正座していました。彼女の左側には包装されたままの花が、正面の薄板には花ばさみ、花留めの道具が置かれています。彼女は突然の侵入者を稽古を見学に来た者と間違ったようで、微笑を浮かべ「お見せするような実力は私にはございません」と言って軽く会釈をしました。天女を見る思いで立ち尽くす私の背後から、師匠としての威厳を取り戻したB子さんが凛として部屋に入ってきたのです。

6回にわたり執筆いただきました有坂正孝氏の体験をもとにしたふくしコラムは、今回をもって終了いたします。ご愛読ありがとうございました。次号より新たなコラムが始まります。

一口メモ

このマークを知っていますか??

ティアラ かまくら

産科診療所
ティアラ かまくら

鎌倉市医師会では、平成21年2月に全国初の医師会立産科診療所をオープンします。この産科診療所の愛称が「ティアラかまくら」です。

ティアラ（Tiara）は宝石をちりばめた王冠形の髪飾りです。産まれてくる子どもはみな「王子さま・お姫さま」という思いから名付けられました。「王子さま・お姫さま」が幸せに成長するように社協では、みなさんと共に「誰もが安心して暮らせる地域づくり」をめざしています。

※はじめの一歩はお休みしました。